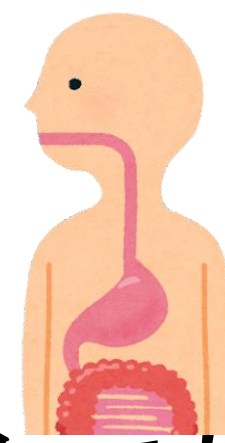


上部消化管X線(胃部バリウム造影)検査について



上部消化管X線検査とは

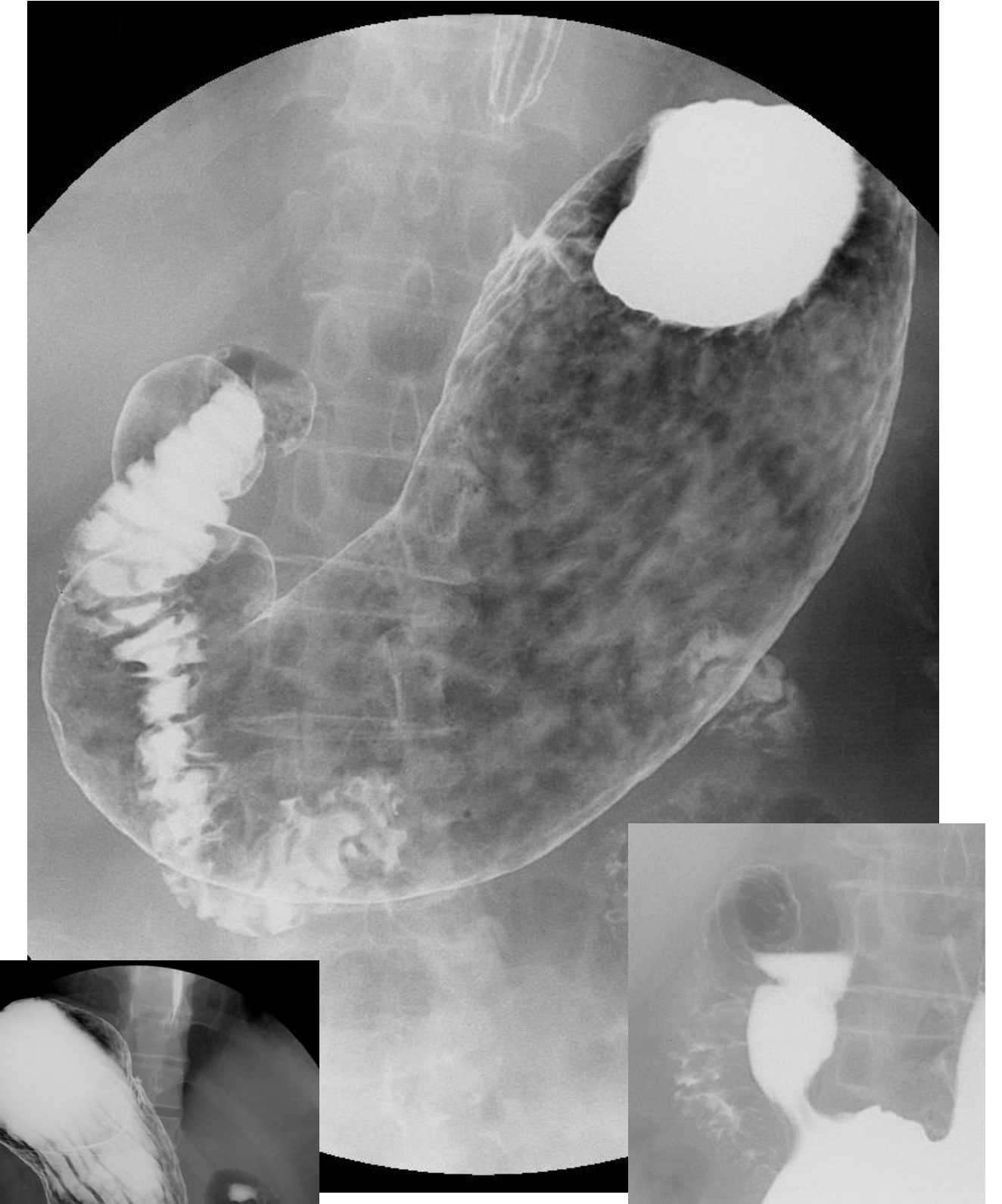


食道、胃、十二指腸までの消化管X線造影検査です。

胃を膨らます発泡剤と造影剤の硫酸バリウム液を飲んでもらい、検査台で回転等の動きをつけることでバリウムを薄く塗った状態となり、胃の粘膜にバリウムを付着させていきます。

様々な角度・体位で撮影を行い、胃の粘膜面を見て診断を行いますので、隆起(凸)があればバリウムをはじいて薄く、凹みがあればそこにバリウムがたまり濃く写るという間接的な診断方法が行われています。食道・十二指腸の走行状態も見えていきます。この検査ではがんやポリープ、潰瘍などが見つかります。

X線検査で病気があるのではないかと疑われた場合、内視鏡にて詳しく検査されることをお勧めします。



食道上部～下部

胃・十二指腸

<<検査手順>>



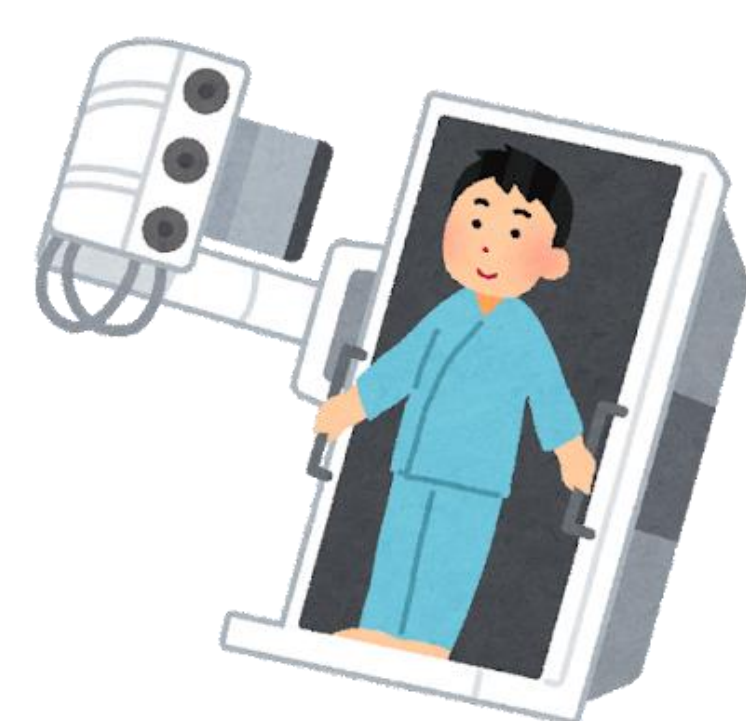
1. はじめに胃を膨らませるための発泡剤を少量の水で飲みます。
2. バリウムを少量飲んでもらい、食道の走行を見ていきます。
*このとき、体位変換の練習と併せて胃の写真も数枚撮影します。
3. 残りのバリウムを飲んでもらい、胃を様々な角度から観察するため、検査台の上で何度も体位変換を行ってもらいます。
4. 最後にお腹を圧迫筒という装置で押さえて調べていきます。

●検査時間は15分程度です。

<検査の流れ>



1. 検査着に着替え
*このとき、撮影の障害となる金具等を外してもらいます。
2. バリウム検査についての説明と問診票の確認
3. 検査手順の説明後、検査開始
4. 検査終了後に手洗い・うがい
5. 検査後の注意点などの説明



当院では検査前後に簡単な説明と注意点をお話させていただきます。検査への不安や緊張をほぐすためにコミュニケーションを取らせていただいておりますので、お気軽にご相談ください。



◎当院でのバリウム検査の特徴◎



①発泡剤の飲用(5g)

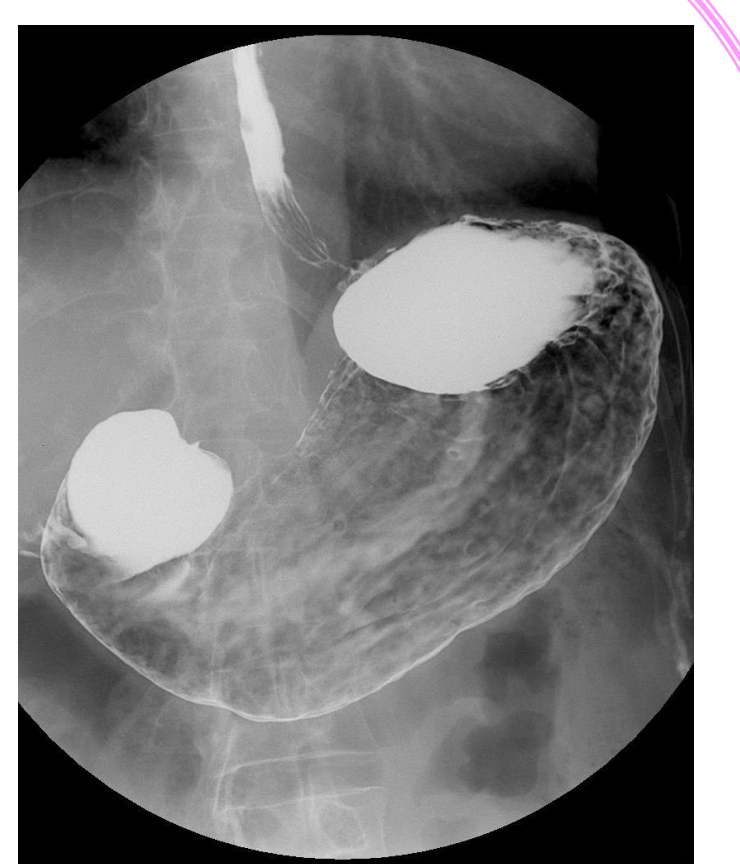
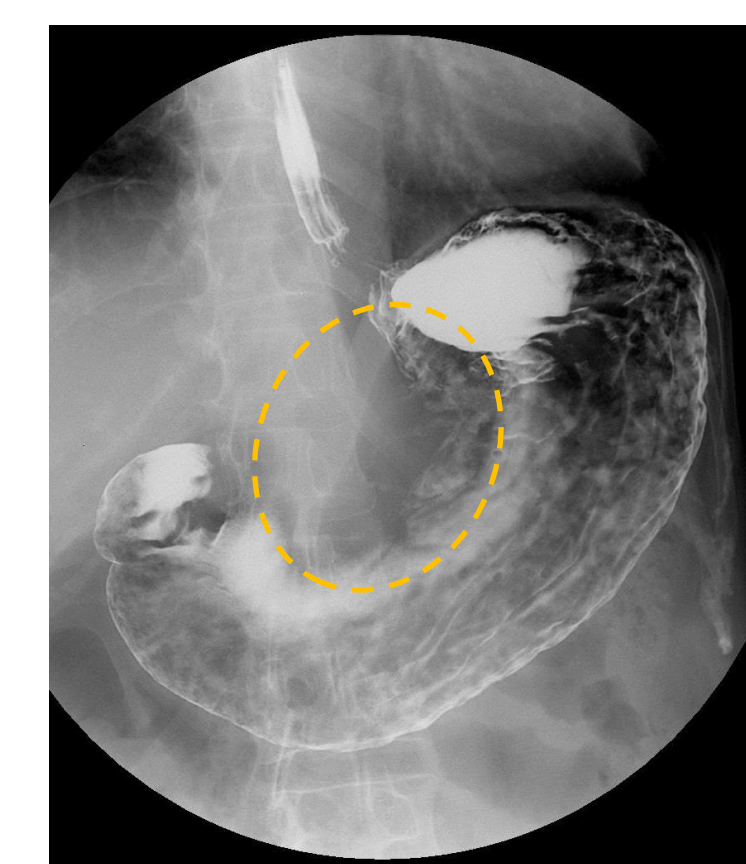
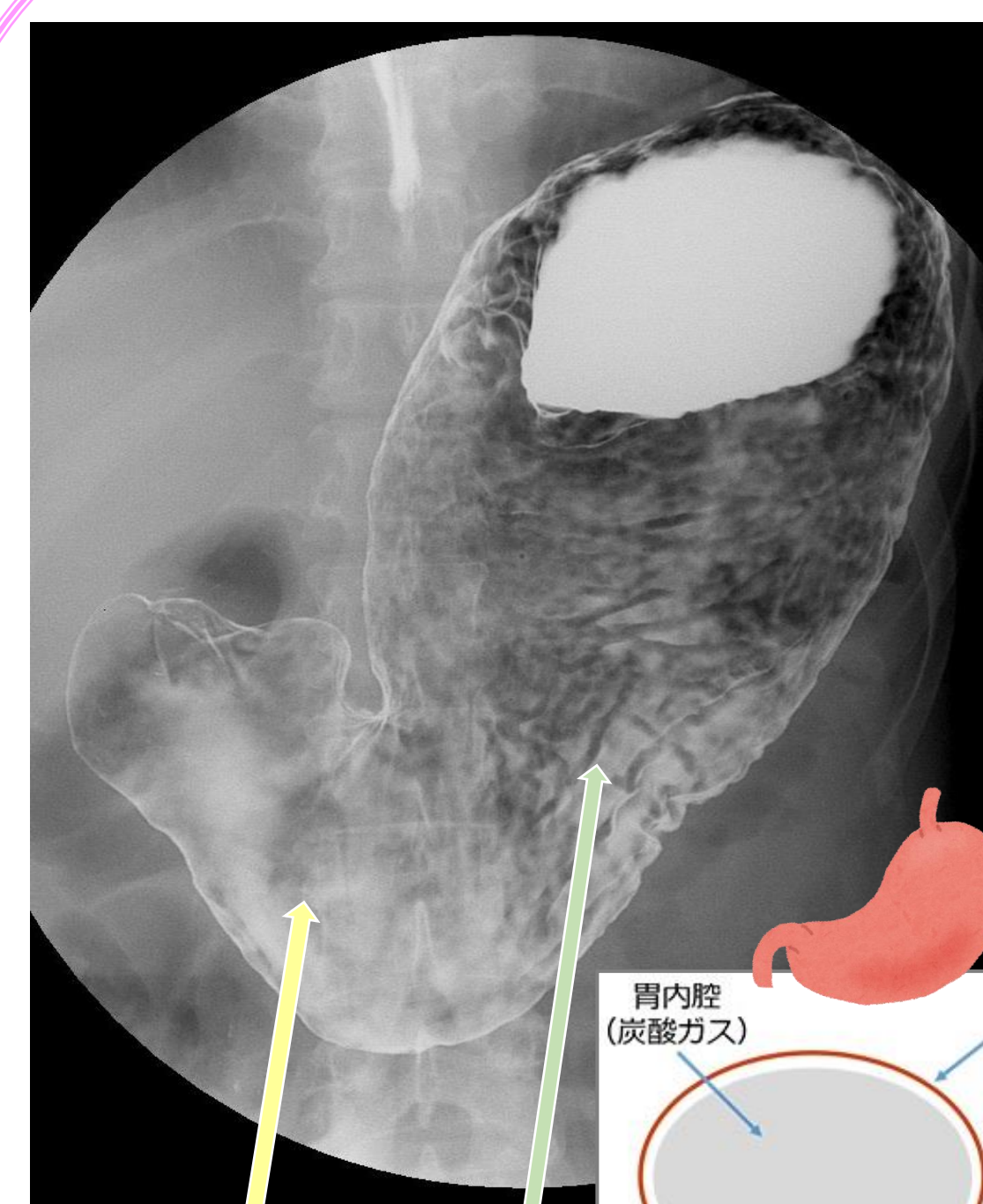
当院で使用している発泡剤は、**通常よりも若干細かい顆粒タイプ**で、味に**酸味**がありますので飲みやすいと思います。また、飲用時は少しでもゲップを抑えやすくするために、飲み水に少量の消泡剤を加えています。



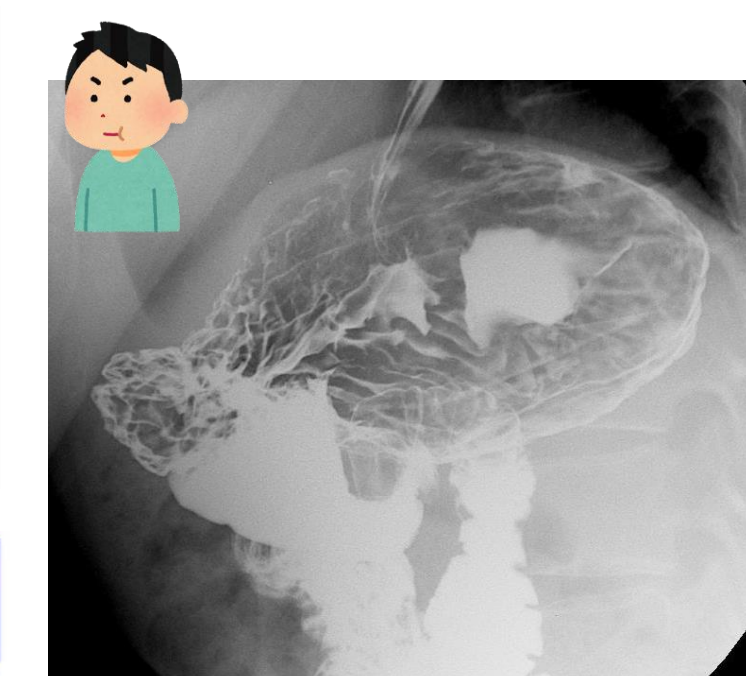
②バリウムの飲用(150ml)

当院で使用しているバリウムは**レモン風味**であり、通常のもものと比べて飲みやすいと言われています。また、より飲みやすい工夫で、**サイダー風味等のフレーバー**を加えたり、口を汚さないよう**ストロー**で飲むこともできますので、担当者にお気軽にお尋ねください。

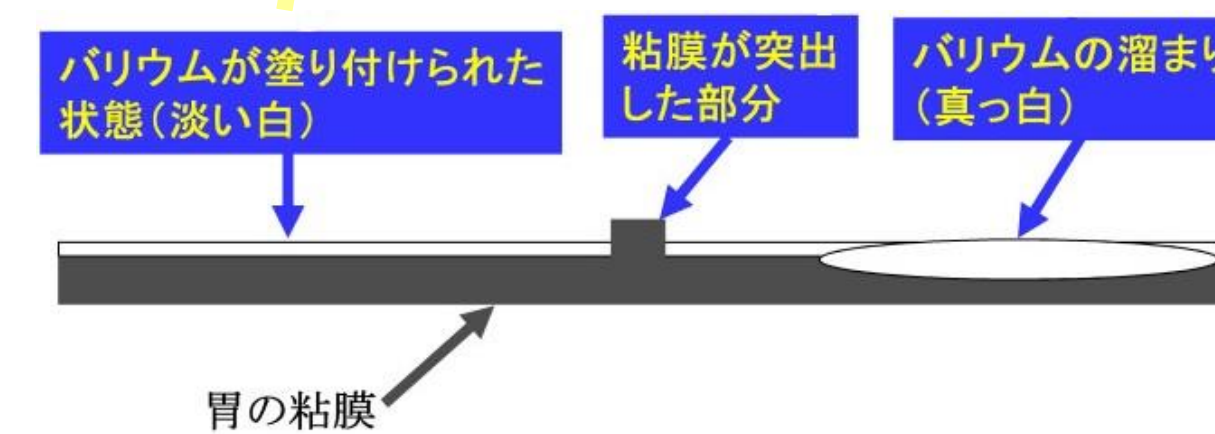
検査時に気を付けてほしいこと



左図. 回転不足のため胃粘膜描出にムラ
右図. 回転を重ねると胃粘膜の描出良好

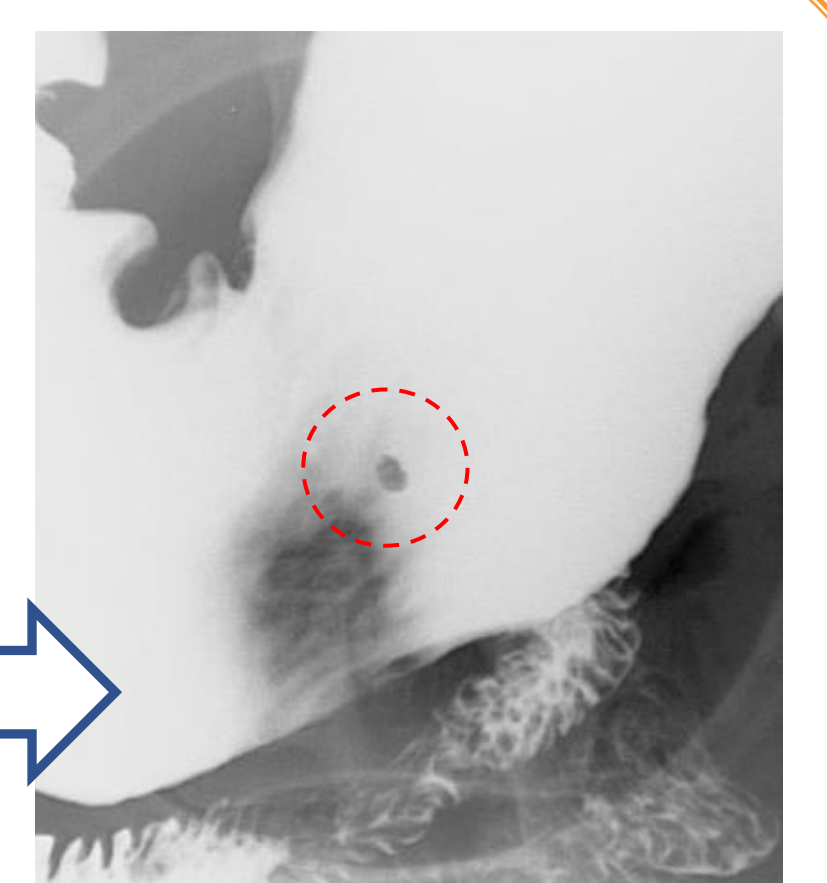


左図. 適度な胃の膨らみと張り、粘膜描出良好
右図. 検査中ゲップ、胃が萎み描出不良



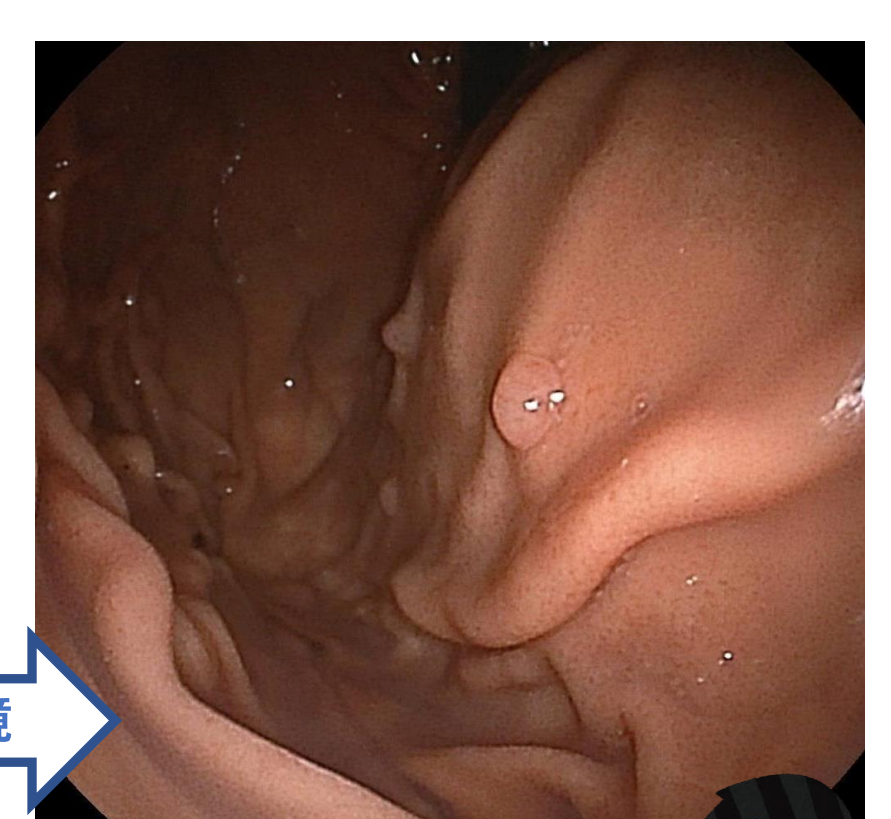
*バリウム検査において、**スムーズな体位変換**(壁面にバリウム付着)や**ゲップを我慢すること**(胃内腔粘膜の描出)が重要になります。

症例



バリウムの溜まり

胃ポリープ



多発ポリープ

	メリット	デメリット
胃カメラ検査 (胃内視鏡検査)	食道や胃の内壁細部まで映すことができ、ごく小さな腫瘍も発見することができる	内視鏡が口から食道、胃の中を通るため異物感や痛みを伴うことが多い
バリウム検査 (胃レントゲン検査)	低侵襲性 ・胃カメラ検査(胃内視鏡検査)のときのような異物感はない ◎胃全体の状態が分かる スクリーニング検査として有用!	・検査中にげっぷをすると発泡剤を追加することになってしまう ・バリウム(造影剤)を飲むことが苦しい人もいる ・バリウム検査で異常が見つかったら、胃カメラ検査(胃内視鏡検査)を受けることになる